

まんさく



2025 | <https://www.niimi-u.ac.jp>

包括連携協定式&福祉×交通・移動支援を考える
シンポジウムが開催されました。

Events & News

各学科の取り組み紹介

夢に向かって
活動している学生たち

教員の活動紹介

健康保育学科教授 森 英頭

同窓会だより

在学生状況 教員の異動

お知らせ

卒業生進路状況



福祉×交通・移動支援共創モデル 実証プロジェクト(新見版 MaaS)

全世代型地域包括ケア研究センターの「コレクティブ・インパクト部門」では、新見市の移動・交通に課題を抱えるすべての人(高齢者、障がい者等)に対して、福祉の視点から解決方法を探るプロジェクトを実施します。

実証実験は2種類あり、①福祉の拠点で介護予防・健康づくりを行った後に、既存の公共交通機関を使って学生と一緒に楽しく外出する機会を提供する「新見版 GOトレ」、そして②移動・交通に課題を抱えるすべての人に最適な移動・交通手段をコーディネートする人材や買い物や病院等に付き添うことのできる「福祉型ハイブリッド人材開発」を行います。

特に2025年度は「新見版 Goトレの実証実験」に力を入れる予定です。新見市内でモデル地区を選定し、特に移動ニーズを抱えるフレイル高齢者等の方々に、地域の拠点に集まって介護予防・健康づくりを行って頂いた後に、既存の交通機関・サービスを活用して外出して頂きます。外出には本学の「学生付添サポーター」が付き添い、買い物やレジャー等を参加者とともに楽しむことで更なる生活の質の向上を目指します。

※ MaaS (Mobility as a Service) とは：地域住民や旅行者の移動ニーズに応じて、複数の公共交通や

包括連携協定式&福祉×交通・移動支援を考

■ 包括連携協定式

2025年6月28日(土)の11:00~12:00に、新見市、特定非営利活動法人みんなの集落研究所、岡山トヨタ自動車株式会社、一般財団法人トヨタ・モビリティ基金、そして公立大学法人新見公立大学が、新見市において、福祉×交通・移動支援の取組を推進する産学官民の代表によるプロジェクトチーム(Niimi Mobility as a service Project NiIMP ニーエムピー)の立ち上げに伴い、包括連携協定式を実施しました。このプロジェクトチームは、新見版 MaaSの実証実験を行い、効果を検証して、取組が地域に定着するための戦略を立てる役割を果たします。



協定式

健康保育学科

NiU 新見駅西サテライト活動 (こども交流広場) ストレッチ・ダンス講座 NiU(ニウ)

NiU 新見駅西サテライト「ストレッチ・ダンス講座 NiU (ニウ)」(講師：健康保育学科 福武幸世助教)は今年4周年を迎えました。2025年度は39人の幼児と小学生が応募してくれました。音楽やダンスに興味があるお子様や身体を思いっきり動かし、自分でオリジナルのダンスを考えたいお子様が集まって、感性を磨いています。7月20日(日)は、健康保育学科3年生の学生(福武ゼミ)が、初めて講座に参加しました。ポップ・ステップ・ジャンプコースの子どもたちとストレッチやダンスを通して交流を深めました。学生は、子どもたちが表現活動を楽しんでいる様子を見て、自分もとても楽しく活動に参加することができたと感想を述べていました。2025年度は5月から11月まで開講します。



講座に来られた親子との交流の様子



ホップコース(幼児と保護者)の様子



ジャンプコース(小学生の経験者クラス)の様子

地域福祉学科

田治部地区花まつりへの参加

共生社会実践演習の授業の一環として、2年生が田治部地区の地域活動に参加しました。活動内容としては、5月上旬の苗植え、6月中旬の花祭りでシャボン玉やバルーンアート等のブースを企画し、地域の子供達が楽しめるよう、地域の祭りを盛り上げていました。

学生と地域が協働することで、地域の方々との交流を通し、人と人のつながりの大切さを理解したようです。



田治部花祭り



田治部花祭り

看護学科

令和7年度 看護学実習に向けての宣誓式 (旧・戴帽式に代わる式典)

令和7年6月27日(金)、「看護学実習に向けての宣誓式」を開催しました。

この宣誓式は、従来の戴帽式に代わり、看護について学ぶ機会として実施されてきた「看護学セミナー」に代わる、新たな形式の式典です。

看護学科2年生は、7月から「基礎看護学実習Ⅱ」に臨みます。学生という立場から、看護師・社会人としての自覚と責任が求められる大きな一歩です。

この節目にあたり、臨地実習に向けた心構えを新たに、看護師としての倫理観と責任感を深めることを目的に宣誓式を開催いたしました。看護の道を歩む覚悟を共有する貴重な機会となりました。



学長講話



学生代表による決意表明



看護2年生と教員の集合写真

調査対象地域に出向いて、「生活習慣と健康」に関する質問紙調査の配布と回収を行いました！

保健師課程の必修科目「疫学調査・疫学演習」では、地域に暮らす住民の方々にご協力いただき、生活習慣と健康に関する質問紙調査を行いました。猛暑の中、学生たちは対象者宅を一軒一軒訪問し、調査の依頼と調査票の配布・回収に取り組みました。今後は、得られたデータを統計的に分析し、喫煙や歯科保健などのテーマから健康課題を抽出し、改善策を提案・発表する予定です。

地域の声に耳を傾け、データを読み解き、社会に向けて発信する一連の経験は、保健師をめざす学生たちの大きな学びとなっています。

住居宅を訪問する学生の様子



訪問ルートを話し合う学生の様子

見学実習（幼稚園教育実習）に行きました（健康保育学科3年生）

6月に新見市立新見中央認定こども園に見学実習に行きました。雨天でしたが、元気に遊ぶ幼児の姿や室内の環境を参観し、園長先生のご講話を伺い、多くの学びを得ました。

学生の感想：「5歳児がゲームをしている時に皆で話し合い、話し合いで出たルールを守ることによって楽しく遊ぶ姿が見られ、このような流れをつくり幼児を仲介していく保育者の凄さを感じました（橋高未歩）」

「保育者間でしっかりコミュニケーションを取ることが良い保育につながるわかりました。温かい空気感をつくり協力しやすい関係性がつくれるように積極的にコミュニケーションをとっていきたいと思います（大槇結奈）」



一緒に「オセロゲーム」で対決をしました。いい勝負でした。



「お風呂で遊ぼう！」の遊びの参観で、保育者の言葉掛けについて学ばせていただきました。

介護福祉概論～モビリティ機器の活用～

地域福祉学科では、社会福祉士、介護福祉士それぞれの養成課程における指定科目・教育の内容のうち、共通する部分を、1つの科目（学科必修科目）として全員が学修できるようにしています。介護福祉論もその1つです。

7月22日には、モビリティ機器の学修をしました。中山間地域では公共交通の不便さや近隣の商店の廃業などが課題になっています。電動の車いすやスクータータイプのシニアカーは、道路交通法上、車いすの扱いになるので、自動車の運転免許を返納した後、自動車の代替りの移手段として活用できます。

学生たちは、モビリティを楽しそうに学修していました。また、「こうした知識があれば、対象者に提案できる」、「誰かに頼まなくてすむし、自分で商品が選べるなど、利用者の生活の質（QOL）が上がる」などの感想を述べていました。



学内を走行し、モビリティの実用性を学びました。

地域福祉学科

コミュニティ・ソーシャルワーク実習 ～大先輩が勤務する事業所実習～

地域福祉学科3年生は、28日間210時間のコミュニティ・ソーシャルワーク実習を行うこととなっています。

今回、短大2期生が実習指導者として勤務する宇和島市社会福祉協議会で学生2名が実習を行いました。実習では、さまざまな地域福祉活動に参加しながら、地域を基盤としたソーシャルワークについて理解を深めました。

実習学生達は住民の方々との交流や各種活動に参加することで実践な学びになったと振り返っていました。



地域アセスメントの様子

実習報告会の様子

健康保育学科

「あそびのがっこう」を開催しました

NiU 新見駅西サテライトで「あそびのがっこう」(子どもの庭プロジェクト)を開催しました。「あそびのがっこう」は、新見市内の幼児と保護者を対象とした造形活動を中心とする連続講座です。

7月の講座では健康保育学科3年生の学生(牛島ゼミ)が、企画立案、広報活動、教材の準備・試作、会場設営を担当し、当日の講師も務めました。一連の活動を通じて、学生たちは実践的なスキルを培うことができました。また、幼児や保護者の方々との交流は、大学での学びを実践する貴重な機会となりました。



ワークショップ(しかけえほんをつくる)の様子

「あそびのがっこう」のチラシ(表・裏)



看護学科

養護教諭養成課程での 教員採用試験への取り組み

新見公立大学 看護学科養護教諭養成課程では、教員採用試験対策として、エントリーシート対策、筆記試験対策、面接試験対策(個人・集団)、模擬授業演習、実技演習等を行っています。実務経験のある教員による指導や学年を越えた学び合いを通して、一人ひとりをきめ細かくサポートし、合格をめざしています。昨年度養護教諭専修免許を取得し大学院(修士)を修了した学生は、高倍率の中、教職採用試験に合格。現在、養護教諭として活躍しています。



面接演習

AED 演習

認定看護師 教育過程

摂食嚥下障害看護認定看護師を 目指す第1期生の研修取り組み

本課程では、4名の受講生が勤務と両立しながら日々学習に励んでいます。前半は特定行為研修として、eラーニングによる自己学習を基に、隔週金曜には集合演習を実施。シミュレーターやアプリも活用し、臨床実践に直結した教育を展開しています。受講生同士の意見交換やディスカッションも活発で、少人数ならではの連帯感も育まれています。後半は認定看護分野の講義や臨地実習を通じて、さらに専門的なスキルの習得を目指します。



トリアージの演習

身体診察の演習

(公財) シップヘルスケア古川教育財団より助成を受けました。

みんなのひろば

北林 和果 (健康保育学科 3年)



みんなのひろばでは子どもから高齢者まで幅広い世代の方の交流の場をつくり、地域の活性化に取り組めます。

フリーペーパー「なるたき」

住友 蛭莉 (看護学科 2年)



私達は大学や新見市内の魅力を生徒目線で独自に取材・編集し、より多くの人に発信する活動を行っています。

サテライトキャンパスを活用した地域交流活動の展開

山根 菜月 (看護学科 2年)



学生と地域の方を対象として、サテライトフェスティバルを開催し多世代交流を図りました。

むすびの会～つないでむすぶ地域の輪～多世代の居場所づくり

山内 優奈 (看護学科 2年)



交流会やカフェを通して、地域住民の方や大学生との心を「むすぶ」活動をしています！遊びに来てください♪

NiU PLACE (ニュープレイス)

古河 佳奈実 (地域福祉学科 2年)



季節やイベントに合わせた空間をコーディネートし、そこに集う人々の心が通い合い、温かい関係を育む「しつらえ力」で居場所を作り、学生を中心とした幅広い世代の「一歩」を応援。地域交流を深めます。

たべぷろサークル

伊藤 帆乃花 (地域福祉学科 2年)



たべぷろは子育て支援の実施を目指し、浴衣を着て楽しむ夏祭りの運営をしました。秋には子ども食堂を開催します。

新見市内地域運営組織と連携したまちづくり・情報発信活動の展開 ～刑部地区・草間地区を対象に～

東久保 怜嗣 (地域福祉学科 2年)



刑部地区で地域住民が気軽に集える居場所づくりと「くさまそば粉クッキー」を通じた草間地区の魅力を発信します。

社会福祉の学修を活かした新見市内2地区での課題解決プロジェクト

栃谷 真奈美 (地域福祉学科 3年)



地域福祉学科「共生社会実践演習」にて、福祉の専門知識を活かしてサロン運営やウォーキングマップを制作します。

神根を後世に～健康的に暮らし続けるまちを学生視点で～

的場 天音 (地域福祉学科 3年)



神根本地区で住民同士の連帯強化や住み慣れた地域で暮らし続けることを目的に集落研究・交流事業を行います。

岡山県津山市上加茂地区における農村PMO事業による関係人口増加を目指す交流のあり方に関する実践研修

清川 奨真 (地域福祉学科 4年)



上加茂地区の地域活性化につながる取組を企画・実施・評価することで、学生の実践研究能力の向上を目指します。



この先生に聞きました

「気づき」から自分と社会をひらく —アートから見える景色について

私の専門はアート、特に木を素材にした彫刻制作です。これまで、自身の芸術表現として彫刻作品を制作するだけでなく、仏像彫刻やその修復にも携わりながら、木を彫る行為そのものを通じて、「もの」と「身体」との関係を見つめてきました。私にとって、彫刻は形をつくることだけが目的ではありません。つくるという行為そのものが、考えることや感じることと深くつながっています。そうした制作の経験を重ねるうちに、次第に「アートが社会とどう関わることができるのか」という問いが、自分の中に芽生えてきました。最近では、地域の人々と共にプロジェクトを立ち上げたり、社会の中でアートができることを実践的に試したりするなど、新たな価値を生み出す活動を行っています。

アートに触れることは、人間の持つ認知の領域を拡張します。たとえば映画やアニメ（これらも紛れもなくアートです）を観たときに、ふと心が動く瞬間や、「わかる！」と共感するような感覚を覚えることがあります。それは、自分の中の感覚や記憶と作品が結びついて、新しい視点が生まれる体験です。アートを通して、言葉にならなかった思いや、心の奥に沈んでいた感情が、目の前で可視化されるような瞬間があります。

なぜそのようなことが起こるのか。それは、作品を生み出すアーティストたちが、生きている社会の中で、自分なりに感じたことを見つめ、自身の考え方と向き合い、それをかたちにして差し出しているからです。彼らがそうした感覚を大切にしているからこそ、作品を通じて、私たちにも何かが伝わるのだと思います。

多様な人々やユニークな作品との出会いを通して、社会とは固定された世界ではなく、人の関わりや視点によって少しずつ形を変えていくものだと、私は気づきました。

アートには、伝統と革新の間を行き来しながら、自分自身や他者、そしてこの社会との関係をあらためて見つめる力があります。だからこそ、アートの思考を活かすことで、地域の中に“変化の余白”を見出す「気づき」を育てていく——それは、ケアにも深くつながる営みなのではないでしょうか。

この「気づき」は、社会や構造に潜む見えない課題に気づくことにとどまりません。むしろ、自分の中にある無意識の感覚や、ふだん見過ごしている小さな違和感と向き合うような時間でもあります。とはいえ、無自覚な無意識に自分で気づくことは簡単ではありません。そこ



健康保育学科 教授
森 英顕

熊本県出身の彫刻家・美術家。木彫を中心に伝統と実験性を融合した作品を制作。熊本市にアトリエを構え、都市部での発表も継続。教育者としても活動し、2025年4月より新見公立大学教授を務める。

で、特に意識したいのが、二つの感覚です。一つは「体性感覚」、もう一つは「社会を見る目」です。

体性感覚とは、身体の内側にあるセンサーのようなものです。たとえば、赤ちゃんが手を伸ばして誰かの顔に触れるとき、自分の腕の長さや相手との距離を自然に感じ取っています。そうした感覚は、ものをつくる場面でも、日々の会話や関係性の中でも、とても大切です。

もう一つの「社会を見る目」は、いまの時代の動きや人と人との関係性を、さまざまな角度から捉えようとする視点です。そして、その物事に対して自分がどんな感覚——モヤモヤやソワソワ、あるいはウキウキといった気持ちを抱いているのかを知ること、同じくらい大切だと感じています。

アートの体験は、自分自身の内側から始まる「気づきのプロセス」から生まれます。そしてその気づきが誰かと共有されたとき、新しい関係や学びが生まれていきます。そういう意味でも「気づき」は、私たちが本学で大切にしている「ケア」の考え方も深くつながっているのです。

※これまでの活動記録やポリシーについては、ウェブサイト (<https://researchmap.jp/hideakimori>) に公開しています。



森英顕 / (COMA-MANULNECO (SPICY & MILD)) / 2024年 / 樟に彩色 / H55×W52×D36(cm) × 2 / 作家蔵

おやこ・きょうだいの
入学を紹介します

Familia



網島(平田)優子(母)・和(子)さん親子で入学

網島 和さん(健康保育学科2年生)

母は、新見女子短期大学の幼児教育学科を卒業し、現在は新見市で保育士として働いています。母も新見育ちで地元が好きだったため、新見市で就職をしたそうです。

そんな母の背中を見たり、楽しそうな話を聞いたりするうちに、私も少しずつ保育士という職に関心を持つようになり、現在は新見公立大学の健康保育学科に通っています。大学で保育について学んでいくうちに、保育士のやりがいや楽しさだけでなく、大変さや難しさも感じています。今後も大学で学びを深め、将来の夢に向かって頑張っていきたいと思います。

同窓会 だより



令和7年8月9日(土)に母校の大学がある新見の地で同窓会を行いました。新校舎や当時、学んだ教室を見学させて頂きました。綺麗な校舎と設備に驚き、また懐かしい教室の雰囲気の一瞬で学生時代に戻り、あの頃の思い出話に花が咲きました。卒業以来33年ぶりに会う友人もあり、それぞれの近況を聞き、元気をもらい糧になりました。再会の喜びと貴重なひと時をありがとうございました。

新見公立短期大学 幼児教育学科 12期生

宮脇 亜由美さん

お知らせ

**“NiU Homecoming Day 2025
- 新見公立大学同窓生の集い”**を開催します！

開催日：2025年11月30日(日)

※事前に申し込みが必要です。

詳細は、大学のHP等でご確認ください。

母校を巣立ち、各分野でご活躍されている歴代卒業生の皆様一堂に会していただき、旧友との再会を喜び、新たな思い出を創りましょう！



(新見公立大学 HP)

集まろう、
話そう、
昔のように。

「同窓会」

みなさんもやってみませんか？



【岡山県からのお知らせ】

県では、「結婚への関心」の向上や「出会いの機会」の創出、「Uターン・定住」の促進等を後押しすることを目的として、同世代の若者の交流を推進するため、新見市と連携しながら同窓会の開催を応援しています。

【新見市からのお知らせ】

市内で開催される同窓会に要する経費の一部を支援しています。(新見公立大学の同窓会も対象)

詳細は、右の二次元コードからホームページをご確認ください。

(新見市 HP)



お問い合わせ

新見市(移住・定住推進課) 0867(72)6114

健康保育学科

関東 4人	茨城県 3
	埼玉県 1
中部 15人	新潟県 1
	石川県 4
	福井県 3
	岐阜県 2
	静岡県 2
愛知県 3	
近畿 24人	三重県 2
	滋賀県 1
	大阪府 2
中国 97人	兵庫県 19
	鳥取県 10
	島根県 14
	岡山県 57
	広島県 10
四国 48人	山口県 6
	徳島県 15
	香川県 6
	愛媛県 24
九州 28人	高知県 3
	福岡県 3
	佐賀県 1
	長崎県 10
	熊本県 3
	大分県 2
	宮崎県 5
	鹿児島県 2
沖縄県 2	
総計	216
うち男子学生	20

看護学科

北海道2人	北海道 2	
東北1人	山形県 1	
関東1人	千葉県 1	
中部 9人	富山県 1	
	福井県 1	
	長野県 1	
	岐阜県 2	
	静岡県 2	
	愛知県 2	
近畿 56人	三重県 1	
	滋賀県 2	
	京都府 4	
	大阪府 3	
	兵庫県 43	
	和歌山県 3	
中国 196人	鳥取県 22	
	島根県 24	
	岡山県 106	
	広島県 37	
	山口県 7	
	徳島県 20	
四国 53人	香川県 10	
	愛媛県 19	
	高知県 4	
	福岡県 5	
	佐賀県 1	
九州 24人	長崎県 4	
	熊本県 2	
	大分県 6	
	宮崎県 2	
	鹿児島県 1	
	沖縄県 3	
	総計	342
	うち男子学生	21

地域福祉学科

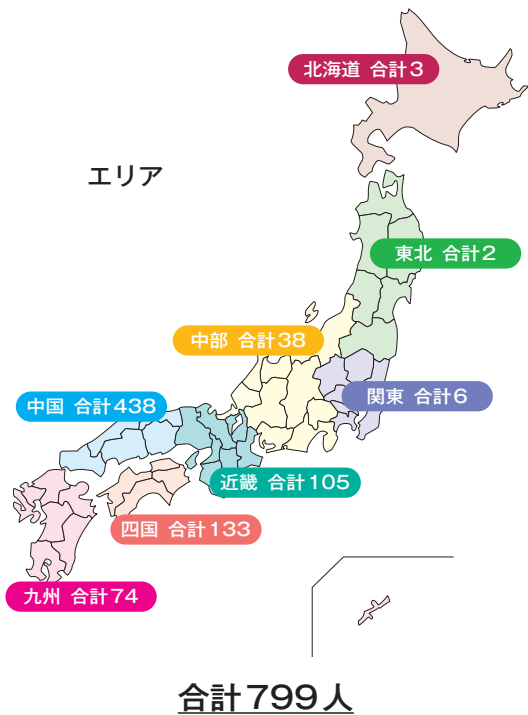
北海道1人	北海道 1
東北1人	福島県 1
関東1人	群馬県 1
中部 14人	新潟県 1
	富山県 1
	石川県 1
	福井県 3
	岐阜県 2
	静岡県 2
	愛知県 4
	三重県 1
近畿 21人	京都府 2
	大阪府 2
	兵庫県 15
	和歌山県 1
	鳥取県 12
中国 124人	島根県 9
	岡山県 76
	広島県 26
	山口県 1
	徳島県 8
四国 31人	香川県 5
	愛媛県 18
	福岡県 5
	佐賀県 1
九州 22人	長崎県 3
	熊本県 1
	大分県 3
	宮崎県 4
	鹿児島県 3
	沖縄県 2
総計	215
うち男子学生	62

助産学専攻科

近畿1人	兵庫県 1
中国 4人	島根県 1
	岡山県 3
四国1人	香川県 1
総計	6

大学院

近畿3人	兵庫県 3
中国 17人	岡山県 16
	広島県 1
総計	20
うち男子学生	6



人事異動

ごくろうさま

【退職】

健康保育学科	講師	高橋 彩
看護学科	特任教授	郷木 義子
看護学科	助教	難波 香
地域福祉学科	講師	朴 蕙彬

新任教員からご挨拶



森 英頭 先生
健康保育学科 教授

アーティストの視点から、シティズンシップを学ぶ機会を届けたいと思います。



牛島 光太郎 先生
健康保育学科 准教授

造形表現に関する授業を担当いたします。どうぞよろしくお願いいたします。



野口 聡 先生
健康保育学科 講師

4年間の学びをとおして、保育者に成長する学生の支援ができればと思います。



山根 千絵 先生
健康保育学科 助教

児童福祉や施設実習の関連科目を担当いたします。よろしくお願いいたします。



矢野 英樹 先生
看護学科 講師

基礎看護学領域を担当致します。よろしくお願いいたします。



川村 友紀 先生
看護学科 助教

昨年10月に着任し成人看護学領域を担当しております。よろしくお願いいたします。



浅井 美穂 先生
看護学科 助教

基礎看護学を担当します。どうぞよろしくお願いいたします。



山本 昌子 先生
看護学科 助教

4月から精神看護学領域の助教として着任いたしました。よろしくお願いいたします。



豊田 育恵 先生
看護学科 助手

4月から母性看護学領域の助手として着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。



雑賀 正彦 先生
地域福祉学科 講師

昨年10月に着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。



金子 宏明 先生
地域福祉学科 講師

学生が夢を掴めるように全力で後押ししたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

岡山市立市民病院と新見公立大学が包括連携協定を締結しました

2025年7月11日(金)13:00-14:00、岡山市立市民病院にて、新見公立大学と同病院との包括連携協定の調印式が執り行われました。

岡山市立市民病院を運営する市立総合医療センターの松本健五理事長と、新見公立大学の公文裕巳学長が協定書に署名しました。

本協定は、主に臨地実習における学修環境の一層の充実を図るとともに、臨地実習指導および学内教育の質の向上を通じて、学生の指導体制を強化することを目的とするものです。これにより、大学と実習病院が協働して、学生がより効果的に学修

できる環境を整備し、指導者間のコミュニケーションを促進するとともに、看護基礎教育の充実を推進します。双方が連携し、質の高い看護専門職の育成を目指してまいります。



KTSM 口から食べる幸せを守る会 第13回全国大会を開催しました

2025年7月5日、NPO 法人 口から食べる幸せを守る会（小山珠美理事長）第13回全国大会を岡山県医師会館にて本学共催で開催しました。「地域ぐるみの食支援～世代を超えて口から食べる幸せを～」をテーマに、全国から約200名が参加。公文裕巳学長による基調講演「地域ぐるみの食支援～その

今日的意義～」、NiU-KTSM プロジェクトの原点となった患者家族の想いや新見市（学内・外）での取り組み、人生の最期まで食べることを支えられる地域での実践など、多世代の「口から食べる幸せを守る」重要性を広く共有しました。



シンポジウムでの看護学科4年生の発表の様子



ミニレクチャー「守ってほしい食事介助のポイント」の様子



第13回全国大会終了直後、実行委員と登壇者での記念写真

韓国・世京大学と学術交流協定を締結しました

本学は、2025年6月17日、韓国・世京（セギョン）大学と学術交流協定を締結しました。世京大学は1994年設立、学生数約800人の私立大学で、江原道寧越（ヨンウォル）郡に位置し、看護学科や社会福祉科を有しています。寧越郡は新見市と同様、中山間地域にあり、人口減少や介護など共通の地域課題を抱えています。こうした背景から、両大学は教育・学術交流を通じた人材育成を目指し、今回の協定締結に至りました。今後は学生交流や保健・福祉分野での連携を進める予定です。本学が海外大学と協定を結ぶのは延世大学に続き2校目です。



まんさく

2025年9月号
Vol.69

編集
後記



まんさく69号をお読みいただき、誠にありがとうございました。

今号の特集では、「福祉×移動支援」のシンポジウムと「新版 MaaS の推進に向けたプロジェクト」についてお届けいたしました。中山間地域に位置する新見市にとって、住民の移動支援は重要な課題です。引き続き、本プロジェクトにご注目いただけますと幸いです。

また、新たに韓国・世京（セギョン）大学との学術交流協定を締結したこともお伝えしました。本学と同様の環境にあり、共通の地域課題を抱える世京大学との連携を通して、新たな知見が生み出されるものと期待が高まります。

地域の話題としては、2019年以来6年ぶりとなる「新見ふるさとまつり」が開催されました。第50回という記念すべき節目に、学生・教職員有志による「大学連」が参加し、踊りを披露しました。そのほか、歌い手や太鼓の打ち手を務めた学生、ポスター公募への多数の応募など、学生たちは様々な形でこのお祭りに関わりました。市外から入学した学生たちが一体となりお祭りを盛り上げる姿は、新見がすっかり「第2のふるさと」になっているようで、大変喜ばしく感じられます。

さて、朝夕の風に秋の気配が感じられる頃でしょうか。この原稿を執筆している8月時点では、猛暑の真っただ中です。県外から新見に来て2年目、ここは特別に暑い地域ではないと感じつつも、昨年より確実に増した暑さに辟易しています。時節柄、皆様もどうかお疲れが出ませんようご自愛ください。（谷高）

発行

新見公立大学

〒718-8585 岡山県新見市西方1263-2

TEL.0867-72-0634

FAX.0867-72-1492

URL : <https://www.niimi-u.ac.jp/>



編集

広報委員会

広報部長

三上 ゆみ

広報委員(50音順)

- 浅原 佳紀 井上 信次 入江 慶太
- 加藤 由美 岸本由梨枝 雑賀 正彦
- 柴田 知瑞 宮武 一江 村上 留美
- 谷高 徹 矢野 英樹 山根 千絵

新見女子短期大学、新見公立短期大学、 新見公立大学の卒業生、在学生の皆様へ

2026年3月15日(日)に新見公立大学地域共生推進センター棟で「地域社会の未来につなぐ看護研究」をテーマに、日本看護研究学会中国・四国地方会第38回学術集會を開催することになりました。地域医療・看護の未来につなぐ看護研究の推進を目指し、共生社会実現に向けて次世代を見据えた看護の力を考える機会にしたいと思います。

卒業生、在学生の皆様には、新しい講堂で、看護実践者、看護研究者とともに討論ができることを祈念致します。母校での学術集會は初めてになりますので是非ご参加下さいますよう、お願い致します。

日本看護研究学会中国四国地方会
第38回学術集會 実行委員長 上山和子

NR一般社団法人
日本看護研究学会中国・四国地方会第38回学術集會
～地域社会の未来につなぐ看護研究～

開催日：2026年3月15日(日) 9:30~16:10
開催地：新見公立大学 地域共生推進センター棟 講堂 (岡山県新見市)

演習登録期間：2025年10月1日(水)~2025年12月5日(金)
事前参加登録期間：2025年10月1日(水)~2026年2月6日(金)

特別講演「半世紀の視座を振り返りつつ、新見公立大学 卒業 以上 健児 健児 学術セミナー」(地域共生推進センター棟) 新見公立大学 大庭友子 教授
教育講演「超断片化社会と在宅看護」 近畿医科大学看護学科学部准教授 宇野由美 准教授
シンポジウム「看護実践教育の場における討論看護」 近畿医科大学看護学科学部准教授 宇野由美 准教授、近畿医科大学看護学科学部准教授 宇野由美 准教授、近畿医科大学看護学科学部准教授 宇野由美 准教授

新見庄、入館の誘い「にいな」 新見公立大学 地域共生推進センター棟 講堂 センター広場
実行委員長 上山和子 (新見公立大学看護学科学部看護学専攻科) 連絡：新見公立大学 新見市 新見公立大学看護学科学部看護学専攻科 電話：0867-72-0634

～みんなのプロジェクト～
新見市は、高齢化が進む中、高齢者の生活を支えるために、福祉と医療の連携を推進し、地域に根ざした高齢者の生活を支える取り組みを進めています。

新見市 地域共生推進センター棟 講堂

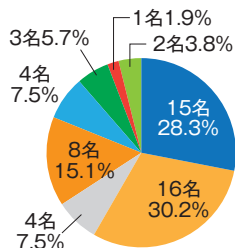
区分	参加申込	観覧申込
会員	4,000円	5,000円
非会員	5,000円	5,000円
学生	1,000円	1,000円

※参加費は、2025年10月1日(水)~2026年2月6日(金)まで
※入会：2024年2月1日(日)まで

交通アクセス
近畿医科大学 岡山キャンパス 近畿医科大学 岡山キャンパス 近畿医科大学 岡山キャンパス

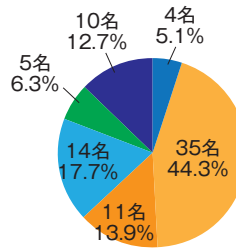
2024年度 卒業生 就職・進学状況

健康保育学科



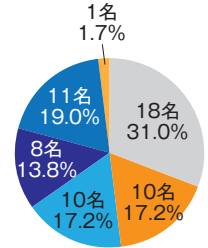
- 保育施設(保幼こいづれが未定の場合)
- 保育所
- こども園
- 福祉施設等
- 官公庁(地方・国家公務)
- 医療機関
- 特別支援学校
- その他の事業所

看護学科



- 大学病院
- 国立・公立・公的病院
- 民間病院
- 保健師(県・市町村)
- 養護教諭
- 進学(助産・養護・大学院)

地域福祉学科



- 公務員
- 社会福祉協議会
- 福祉施設
- 医療機関(ソーシャルワーカー)
- 一般企業
- その他

新見公立大学 健康科学部 看護学科

第114回 看護師国家試験

合格率(新卒者) 100%

第111回 保健師国家試験

合格率(新卒者) 100%

新見公立大学 助産学専攻科

第108回 助産師国家試験

合格率 100%

おめでとう

新見公立大学 健康科学部 地域福祉学科

第37回 介護福祉士国家試験

合格率(新卒者) 100%

第37回 社会福祉士国家試験

合格率(新卒者) 94.5%

(福祉系大学等新卒合格率75.2%)